



東陽病院 副院長 伊藤 文憲

健康への

メッセージ

シリーズ⑦

消化器病とは

光町のみなさんこんにちは。前回の広報紙で自己紹介した東陽病院の内科の伊藤です。今まで専門として消化器疾患を中心としてきましたので、しばらくはその方面についての健康情報をお知らせしたいと思います。

消化器病には大きく分けると、消化管という食道・胃・十二指腸・小腸・大腸などの食物の通り道に異常が起こる病気と、お腹の中にあつて重要な働きを持つ肝臓・脾臓・膵臓とそれらをつなぐ胆嚢や胆管などの臓器の病気があります。いずれもガンなどの悪性腫瘍については症状が出る前に早期発見することが大事です。健康診断を毎年受けることが重要になります。いつも受けているが、たまたま健診を受けなかった時に限って病気が起こることがよくあります。自分に対する保険と思って毎年受診することをお薦めします。

悪性疾患を除くと消化管については食欲不振・腹痛・吐き気・下痢・便秘・吐血などの自覚症状が出やすいことなどから病院を受診することが多く、比較的身近な病気となっており、胃内視鏡検査（胃カメラ検査と呼ばれる）により急性あるいは慢性胃炎・胃潰瘍と診断され、大腸内視鏡検査により大腸炎・潰瘍

性大腸炎やクローン病などの診断がされて治療が受けられます。

しかし、内臓に関しては症状が乏しく、慢性化して初めて受診する場合があるため、その早期の診断が大切な

こととなります。最近ではこの方面に関しても住民検査などで肝機能検査などから異常を指摘されて病院を受診するケースが増えていきます。その場合は内臓に関しては腹部超音波検査（よくエコー検査と呼ばれる）が検査による苦痛もなく、放射線の被爆などの心配もなく、しかも情報量が多く有効な検査法となります。人間ドックと呼ばれる一日あるいは二日の健診でも、従来の胃X線検査または胃カメラに加えてエコー検査を行う施設が増えてきたのもそういう理由からです。

エコー検査や採血・尿検査による肝臓・脾臓・胆道（胆嚢と胆管を含む）の生化学検査を行うことにより、内臓の病気の全体像が見えてきます。精密検査として放射線を用いた腹部のCT検査、磁気を用いたMRI検査、少しづらい検査ですが内視鏡を使った胆道や膵臓の検査があり、治療法に関する重要な情報が得られます。

内臓の病気のそれぞれについては次回以降に説明しますが、多い病気としては脂肪肝・慢性肝炎・肝硬変・肝細胞癌・急性膵炎・慢性膵炎や胆石症があります。診断確定の後はお薬による内科的な治療が行われますが、悪性疾患や炎症の強い時は外科的治療が必要になる場合があります。慢性疾患の場合は慎重に経過観察と定期的なエコー検査やCT検査などが必要となります。

※東陽病院の休日当番日

12月9日(日)・29日(土)・1月2日(水) 午前9時～午後5時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎0413335



=町立図書館=
☎043311

☆映画会

『ドラえもん のび太と翼の勇者たち』

期 日 12月23日(日)
上映時間 1回目 午前10時
2回目 午後2時

定 員 各100名
入 場 整理券(無料)を12月8日(土)から
図書館カウンターで配布します。

自分の翼で大空を飛べたらどんなに気持ちがいいだろう…。そんな夢をかなえてくれるドラえもんの楽しい映画。3本立て。



おはなし会

日 時 12月15日(出)
午後2時～
場 所 ハイビジョンホール
定 員 100名

エプロンシアターや楽しいお話をを行います。申込みは、図書館カウンター又は、電話で受付中!!



12月及び年末
年始の休館日

12月10日(月)、17日(月)、18日(火)、24日(月)、12月28日(金)～1月4日(金)